

知っておきたい！
ポイント2

雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量	人が受けるイメージ	災害発生状況
猛烈な雨	80mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある／恐怖を感じる	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要
非常に激しい雨	50mm以上～80mm未満	滝のように降る（ゴォーと降り続く）	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある／土石流が起こりやすい／多くの災害が発生する
激しい雨	30mm以上～50mm未満	バケツをひっくり返したように降る	山崩れや崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要
強い雨	20mm以上～30mm未満	どしゃ降り	側溝や小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
やや強い雨	10mm以上～20mm未満	ザーザーと降る	雨量は少なくとも、長く続くときは注意が必要



▲昨年8月14日の大雨で崩壊した西郷川の護岸。川は増水し、茶色く濁っていました

手光今川の洪水浸水想定区域図を県が近日中にホームページで公表する予定です。公表されしだい、市公式ホームページでもお知らせしますので、河川の近くにお住いの方はご覧ください。

と混じり合った土や石が川から流れ出たりして、命や財産が脅かされる自然災害です。これから梅雨時期を迎え、雨量が多くなると、土砂災害の危険が高まります。まず、住んでいる場所が土砂災害警戒区域かどうか、市防災マップなどで確認しましょう。雨が降り始めた時、土砂災害警戒情報や雨量の情報に注意し、土砂災害警戒情報が発表されたら、地域内のかたがたと声を掛け合い、近くの避難場所など安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障がいのある人など、避難に時間がかかる人や、夜中に大雨が想定される場合は、早めに避難することが大切です。また、土砂災害警戒情報などが発表されていなかったとしても、下図のような状況になっている場合は、直ちに周囲の人と安全な場所に避難し、市役所にご連絡ください。

特集 福津防災

異常気象にご注意を

異常気象が続く昨今、県内では毎年のように大雨による災害が発生。昨年8月にも県南部を中心に大雨が降り、道路や建物の損壊、土砂災害などの被害が発生しました。

大雨と土砂災害

土砂災害とは、大雨や地震などで山や崖が崩れたり、水

ここ数年、同じ場所に猛烈な雨を連続して降らせる線状降水帯が発生しています。今、命を守るためにどんな備えができるのか、知っておきたい知識や心構えを考えてみましょう。 **問い合わせ** 市防災安全課 ☎43・8107

知っておきたい！
ポイント3

土砂災害の前触れ

避難所・避難場所QRコード



土砂災害には、次のような前兆現象があります。前兆現象を確認したら、直ちに避難するとともに、市役所へご連絡ください。

崖崩れ

こんな前触れに注意！

斜面にひび割れができたり崖に亀裂が入ります。崖から小石が落ちてきます

▶湧き水の量が増えます

土石流

こんな前触れに注意！

川が濁ったり流木が混ざり始めます。雨が降り続けているのに、水位が下がります

▲地鳴りの音が聞こえてきます

地すべり

こんな前触れに注意！

崖から出る水が濁ったり、斜面から水が吹き出ます

▶地面にひび割れができます

知っておきたい！
ポイント1

土砂災害とは

市総合防災マップQRコード



大雨や台風、地震が起きたときには、地盤が緩み、崖崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか、市防災マップで確かめることが重要です。

崖崩れ

地中に染み込んだ水分によって、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体になって一気に下流へ押し流される現象です。

地すべり

大雨や長雨などによって、雨水が地面に染みこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたり、ゆっくりと動き出す現象です。

知っておきたい！
ポイント5

災害時の連絡方法

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が1日～数日間続くことがあります。このような場合は「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」・「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

「171」をダイヤルし、ガイダンスに従ってください
このサービスは、大規模な災害が発生した場合に安否確認をする電話サービス「声の伝言板」です。被災地内と、その他の地域の人々の間などで、伝言の登録・再生をすることができます。毎月1日、15日、正月三日、および防災週間、防災とボランティア週間にお試し利用ができます。

災害用伝言板サービス

被災者は、携帯電話を使って安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。

災害用ブロードバンド伝言板(web171)

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。文字や音声、画像の伝言情報の登録、閲覧ができます。以下のURLにアクセスし、案内に従って操作してください。

<http://www.web171.jp/>



伝言の録音方法

「171」をダイヤル

「1」を押す

被災地の人も、被災地以外の人も
被災地の人の電話番号を
「市外局番」からダイヤル

録音

伝言の再生方法

「171」をダイヤル

「2」を押す

再生



安否状況の登録

伝言・安否状況などを入力します。

安否状況の確認

安否状況を確認したい相手の携帯番号を入力して検索します。

知っておきたい！
ポイント4

避難時の心構え

1 状況に応じて、素早く避難しましょう

市から情報が来る前でも、雨の状況などから判断し、自宅のガスの元栓を閉じ、電気のブレーカーを落とし避難しましょう。



5 外出中の家族には連絡メモを残しましょう

「どこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。



2 自分の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持ちましょう

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身に付けて避難しましょう。



6 集団で助け合いましょう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



3 避難は徒歩で

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。



7 安全なルートで

川べり、橋、地下歩道などはできるだけ避け、安全な広い道を選びましょう。



4 持ち出し品は最小限に

リュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



8 避難所では係の人の指示に従いましょう

指定避難所に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。



消防団の活動例(右)女性消防団のポンプ操作展示(中)水防訓練(左)火災防衛訓練



消防団員募集集中!!

減少する消防団員

令和2年の全国の消防団員数は、約81万8千人ですが、10年前には約88万3千人が所属しており、6万5千人も減少しています。

市の消防団員も同様に減少していて、令和4年の消防団員数は275人ですが、10年前には、312人が所属していました。

消防団員の処遇改善

消防団は、火災などの災害時はもちろん、平常時の訓練の他、火災予防のための啓発活動や広報活動などに従事し、地域の防災力の向上を支える大切な役割を担っています。

近年、消防団の存在が全国的に重要視されており、その減少に歯止めをかけるため、処遇改善が求められてきました。

消防団員の募集

本市消防団においても、令和4年4月以降、活動に対する報酬額の引き上げを行っています。

年間の活動に対する報酬や災害活動、訓練などに従事した際の報酬や費用弁償が次のとおり支給されます。

年額報酬 3万7千円(団員) 出動報酬

【災害時の出動】 4時間以上 日額8千円、4時間未満日額4千円

【その他の出動や訓練など】 日額3500円

【費用弁償】 日額2千円

現在活動している消防団員は、職業はさまざまですが、年齢層も幅広いですが「自分たちのまちは自分たちで守る」という共通の思いを持ちながら活動しています。

消防団には、男女問わず18歳以上で、市内在住の人か、市外在住でも勤務地が市内の人なら入団できます。

大切な人やまちを守るため、地域での仲間づくりも兼ねて、消防団活動に参加してみませんか。

